

自由も不自由も関係なく

小 六

私のお姉ちゃんは不自由なところがあります。お姉ちゃん以外の私たちが家族はみんな健康で、不自由のないくらしができます。だけど、お姉ちゃんは生まれつき知的障害があり、やりたいことが口でくわしく伝えられなくて、ストレスがたまりイライラして暴れてしまうことがよくあります。

私は今までこのことを「いやだな。」と思うときがあり、同時に「不自由だからしょうがない。」と思うときもありました。

ずっと、「しょうがない」。どこに出かけてもお姉ちゃんのきげんが悪く

なったら帰るのは「しょうがない」。私は考えました。どうしていつも「しょうがない」につながってしまっただろうと。

この「しょうがない」と思う気持ちについて考えたことが二つあります。

一つ目は、「不自由」というキーワードから、「あ、そうか。不自由でみんなと同じが難しいんだ。」という気持ち。「しょうがない」という考えにつながるのではないかと思いました。

二つ目は、「自分の思いどおりにできないからイライラしてしまうんだ。」と感じ、もどかしい気持ちを「かわいそう」と思い、「しょうがない」になるのかなと考えました。

私はその「しょうがない」も差別にあたるのではないかと思えます。なぜ

なら、不自由を理由にしているからです。自由な人も、不自由な人も、同じ人間なのに分けられてしまっている。私は、不自由だから気をつかうという考えもいいと思っています。けれど、不自由な人の中にも健康な人と同じように接してほしいと思っっている人がいるかもしれないと考え、行動するのも大切なことだと思います。

私が不自由な人との接し方を聞かれたら、「自分がしてもらおうのと同じように。」と答えます。なぜなら、実際にお姉ちゃんにためさせてもらったことがあるからです。もちろんやさしく接してもうれしそうです。けれど、健康な人と同じように接してみるととてもうれしそうでうなずいてくれたり、一生けん命にジェスチャーでアピールし

てくれたりして、なんだかこっちまでうれしくなるのと同時に、この結果がしよげき的でもありました。

私のお姉ちゃんの場合だけど、このように健康な人と同じように接した方がうれしい人もいます。逆に、やさしく接してもらった方がうれしいと感じる人もいると思います。相手のことを考えることが大切だと思います。

このように私は、お姉ちゃんのおかげで、「自由だって不自由だって変わらなく人間だから、その人がやってほしいこと、やらないでほしいことがある。」と分かりました。どんな人でも一人一人に人権があります。この作文をたくさんの人に読んでもらうことで、差別がなくなるという思いをしました。